

一般社団法人 日本薬学教育学会 第4回理事会 議事録

開催日時：令和7年2月5日（水）15：00～17：15

開催場所：WEB 会議システム（ZOOM）による開催

出席者：乾 賢一、有田 悦子、入江 徹美、奥田 真弘、木内 祐二、木下 淳、平田 収正、
小佐野 博史、高橋 一栄、武田 香陽子、長津 雅則、永井 純也、長谷川 洋一
三浦 典子（以上理事）

亀井 美和子、中村 明弘（以上監事）

欠席者：石川 さと子、鈴木 匡（以上理事）

議事に先立ち、定款第35条第2項に基づき、議事録には乾理事長、亀井監事、中村監事が記名押印することが確認された。

議事：

1. 前回理事会議事録案について（承認事項）

有田副理事長より、2024年度第3回理事会の議事録（案）が示され承認された。

2. 2024年度学会賞（教育研究奨励賞・教育実践奨励賞）の募集について（承認事項）

欠席の鈴木理事に代わり乾理事長より、2024年度の学会賞の応募状況について報告され、周知協力の依頼があった。募集期限である2025年2月17日まで引き続き募集を行うことが報告された。

3. 第9回大会収支報告（報告事項）

第9回大会実行委員長である三浦理事より、提出された収支報告書をもとに大会が成功裡に終了したことが報告された。

4. 第10回大会準備状況報告（報告事項）

第10回大会大会長である亀井監事より、第10回日本薬学教育学会大会の準備状況について報告された。開催概要は下記の通りである。なお、懇親会は1日目、社員総会は2日目の開催が予定されている。

＜第10回日本薬学教育学会大会＞

会期：2025年8月23日（土）、24日（日）

会場：帝京平成大学 中野キャンパス

大会長：亀井 美和子（帝京平成大学 教授・薬学部長）

実行委員長：清水 俊一（帝京平成大学 教授・薬学部教務委員長）

テーマ：多様な未来へ。つなぐ教育。

※特別講演、教育講演、学会奨励賞受賞講演、一般演題、シンポジウム、ワークショップ等

5. 第11回大会準備状況報告（報告事項）

第11回大会実行委員長の永井理事より、第11回日本薬学教育学会大会の準備状況について報告された。

＜第11回日本薬学教育学会大会＞

会期：2026年8月22日（土）・23日（日）

会場：大阪医科薬科大学阿武山キャンパス

大会長：次期学部長

実行委員長：永井 純也（大阪医科薬科大学 教授）

テーマ：未定

6. 委員会報告

・編集委員会

入江理事から資料に基づいてJ-STAGE 公開状況および論文投稿・審査状況が報告された。また、

「薬学教育」公開用論文 ID についてオンライン版と冊子体で共通の記載方法に変更することが報告された。

- ・薬学教育カリキュラム検討委員会
小佐野理事より 2 月 20 日に委員会を開催予定であることが報告された
- ・倫理教育委員会
有田副理事長より本年 3 月に開催予定の日本薬学会第 145 年会（福岡）にて一般演題発表を予定している他、本会の第 10 回日本薬学教育学会大会において倫理教育に関するシンポジウムを企画予定であることが報告された。
- ・ICT 教育委員会
木下理事より南山堂より本学会 I C T 教員委員会委員長として「薬局」（南山堂）2025 年 6 月号の特集に執筆依頼があり、乾理事長の承認を受け「薬学教育での生成 AI 活用の可能性と課題」を執筆予定であることが報告された。

7. 中長期ビジョンワーキンググループ報告（審議事項）

入江理事より、かねてより検討を重ねていた本会の「ミッション」や「2030 年ビジョン」について以下の通り提案され承認された。

「ミッション」:

薬学教育に関する研究の充実発展及びその成果の普及を目的とする。*

「2030 年ビジョン」:

- 会員の多様性を高める。
- 会員の学会活動により、薬学教育研究の重要性の認知度を高める。
- 薬学教育に関する情報のプラットフォームとして、学会内外に広く発信する。
- ニーズを捉えて、会員がワクワクするような学会活動を提供する。
- 薬学の領域が一枚岩となり、多様な組織と有機的に連携する。
- グローバリゼーションを推進する。

* 定款の第 2 条（目的）の文言をそのまま用いる。一方、理事会ワークショップで議論したように、ホームページや広報活動などでは、「医療に貢献する人材の育成のため、薬学教育に関する研究を充実・発展させ、その成果を普及させる」という文言を使用し、よりわかりやすく、親しみやすいものとする。

今後、学会ホームページへ掲載する他、本年開催の第 10 回日本薬学教育学会では大会特別企画として関連シンポジウムを開催予定であることが報告された。なお、ビジュアル化については再度検討することとなった。

中村監事より、今年度中の予算の活用について指摘があり、今年度中のイベントの企画についても検討することとなった。

8. 担当理事報告

- ・生涯教育
高橋理事より日本医療薬学会の年会にて生涯研修に関したシンポジウムエントリーにむけて準備中であることが報告された。
- ・連携教育
木内理事より日本保健医療福祉連携教育学会（JAIPE）との連携した勉強会、ワークショップの実施を企画中であることが資料に示され報告された。
- ・広報担当（審議事項）
欠席の石川理事に代わって入江理事より、学会ホームページへ、これまで学会誌に掲載していた「学会のあゆみ」を新規ページとして掲載することが提案され承認された。
また、配布資料をもとに今後の取り組みとしてリンク集のページの充実に向けた提案がなされ、今後慎重に協議を重ねることとなった。

9.第 49 回医学教育者のためのワークショップについて（報告事項）

奥田理事より、学会からの派遣により参加した第 49 回医学教育者のためのワークショップ（富士研 WS）について概要が報告された。

10.日本薬系学会連合関連（報告事項）

- ・長谷川理事より、「動物の愛護及び管理に関する法律」の改正に係わる要望について本会も賛同する旨を回答したことが報告された。また、本年 3 月に開催される日本薬系学会連合「第 2 回設立記念フォーラム」について共有され周知協力の依頼がなされた。併せて科研費予算関連についても報告された。
- ・小佐野理事より、日本薬系学会連合役員選出方法に関する特別委員会にて検討されている役員選出方法について詳細に報告された。また、奥田理事より追加説明があった。
- ・有田副理事長より、日本薬系学会連合「就職活動問題 WG」メンバーとして本会より小佐野理事を推薦することが提案され承認された。併せて有田副理事長が、日本薬系学会連合「ダイバーシティ推進検討 WG」のコアメンバーとして参加していることが報告された。
- ・奥田理事より第 3 回設立記念フォーラムが 6 月に予定されていることが報告された。

11.理事長報告（報告事項）

- ・機関会員について
機関会員に未入会の大学や新設大学に対しては引き続き機会を捉えて広報等を行っていくことが確認された。
- ・The 12th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference 2025 Japan について
2025 年 8 月 2 日(金)～4 日(月)に日本薬科大学さいたまキャンパスで開催される The 12th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference 2025 Japan（第 12 回 アジア薬科大学協会）の開催について報告され、協力依頼があった。

12.会員登録状況報告（報告事項）

事務局より資料に基づいて 2025 年 1 月 27 日時点の会員数の増減・会費納入状況について、個人会員は 763 名で 2024 年度の会費納入率は 85.1%、学生会員は 60 名で会費納入率は 23.3%、機関会員は 68 件で会費納入率 98.5%、賛助会員は 7 件で会費納入率 82.7%であった。会員数は全 898 件であることが報告された。

13.その他

中村監事より、今年度予算の有用な活用について各委員会において検討するよう助言があった。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、理事長及び出席監事がこれに記名押印する。

令和 7 年 2 月 5 日

一般社団法人 日本薬学教育学会

理事長 乾 賢一

監 事 亀井美和子

監 事 中村 明弘